

平成25年度 第1回県政モニターアンケート調査結果

長野県林務部森林政策課

県政の課題について、県政モニターの皆様のお考えをお聞きし、県政運営の参考とするために「県政モニターアンケート調査」を行いました。

〔調査内容〕 長野県の「山」について8問を設定

〔調査方法〕 ●調査地域 : 長野県全域
 ●調査対象者 : 県政モニター 1,220人
 ●調査方法 : 郵送及びインターネット
 ●調査期間 : 平成25年4月3日(水)～4月15日(月)

〔回収状況〕 回収数 851人 (回収率 69.8%)

回答者の内訳

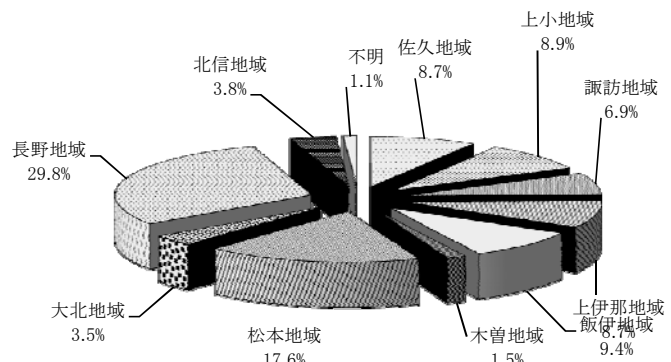
【男女別と年代別】

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
総数	851	15	67	132	194	260	174	9
	100.0%	1.8%	7.9%	15.5%	22.8%	30.6%	20.4%	1.1%
男性	524	10	32	76	114	173	119	-
	61.6%	1.2%	3.8%	8.9%	13.4%	20.3%	14.0%	-
女性	318	5	35	56	80	87	55	-
	37.4%	0.6%	4.1%	6.6%	9.4%	10.2%	6.5%	-
不明	9	-	-	-	-	-	-	9
	1.1%	-	-	-	-	-	-	1.1%

※ 割合(%)はすべて、総数(n=851)に対する割合

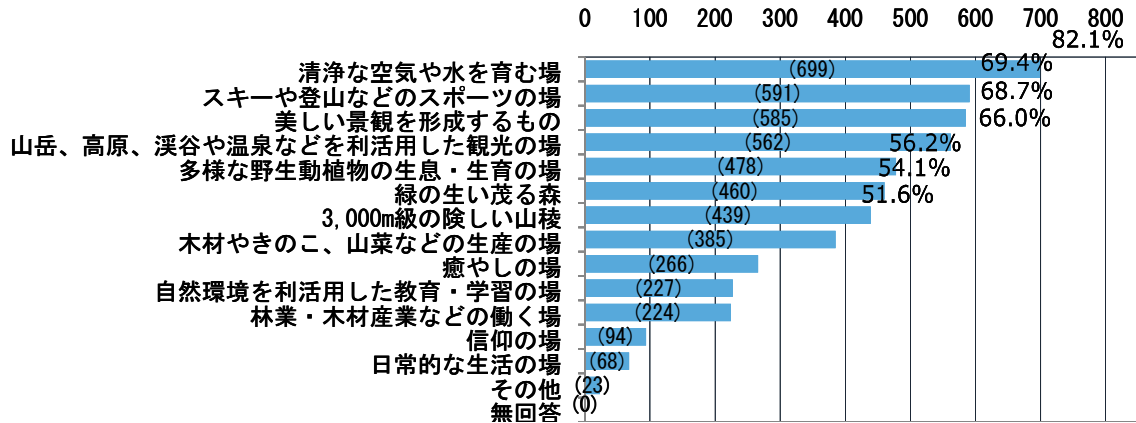
【地域別】

地域	調査対象者数	回答者数	割合
佐久地域	103	74	8.7%
上小地域	108	76	8.9%
諏訪地域	92	59	6.9%
上伊那地域	114	74	8.7%
飯伊地域	112	80	9.4%
木曾地域	17	13	1.5%
松本地域	223	150	17.6%
大北地域	35	30	3.5%
長野地域	367	254	29.8%
北信地域	49	32	3.8%
不明	-	9	1.1%
合計	1,220	851	100.0%



1 長野県の「山」に対するイメージ

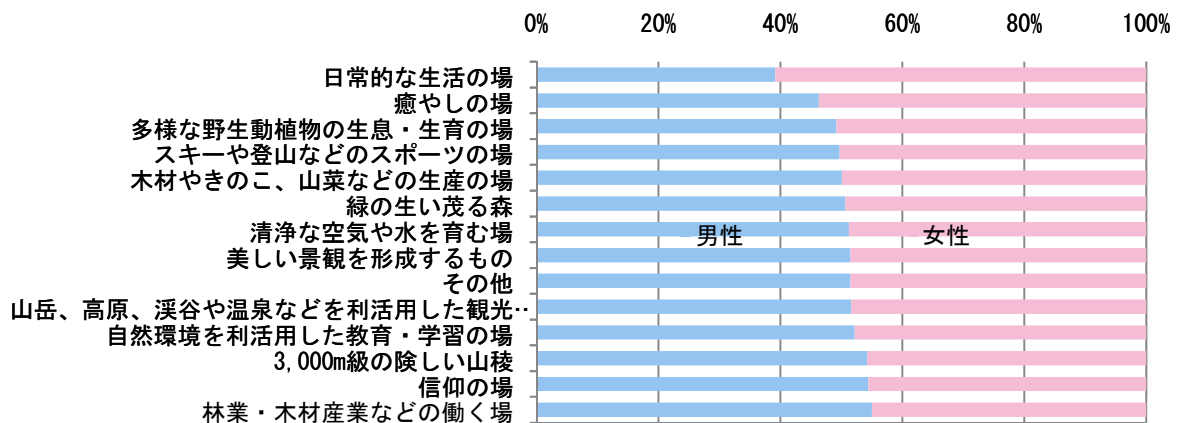
- 全体**
- 「清浄な空気や水を育む場」としてのイメージが約8割
 - 次いで「スキー等のスポーツの場」、「美しい景観を形成するもの」、「山岳等を利活用した観光の場」



- 地域**
- 「清浄な空気や水を育む場」としてのイメージは全県共通で、「景観」、「スポーツ」、「観光」もほぼ共通
 - 一部の地域では、「緑生い茂る森」や「野生動植物の生息等の場」等のイメージが上位

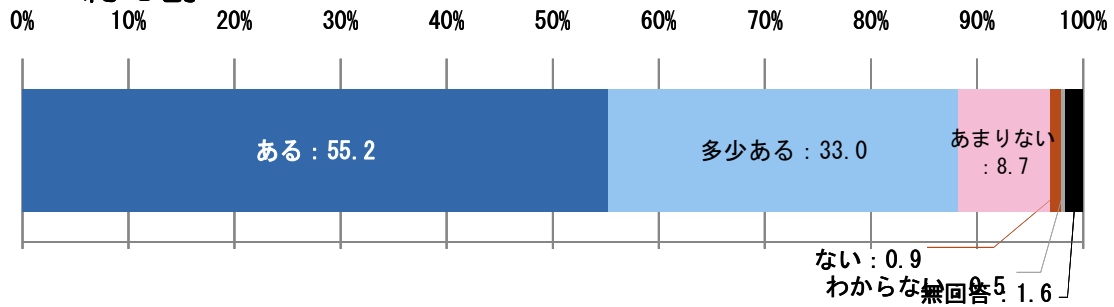
地域	共通(第1位)	その他のイメージ(上位2項目)
佐久・上伊那・飯伊・松本	「清浄な空気や水を育む場」	「美しい景観を形成するもの」 「スキー等のスポーツの場」
上小・大北・長野・北信	「清浄な空気や水を育む場」	「山岳等を利活用した観光の場」 「スキー等のスポーツの場」
諏訪	「清浄な空気や水を育む場」	「美しい景観を形成するもの」 「緑生い茂る森」
木曾	「清浄な空気や水を育む場」	「多様な野生動植物の生息等の場」 「3,000m級の険しい山岳」

- 性別**
- 性別によるイメージの違いは少なく、女性は「日常生活の場」や「癒やしの場」として、男性は「林業等の働く場」や「信仰の場」としてのイメージがやや高い傾向



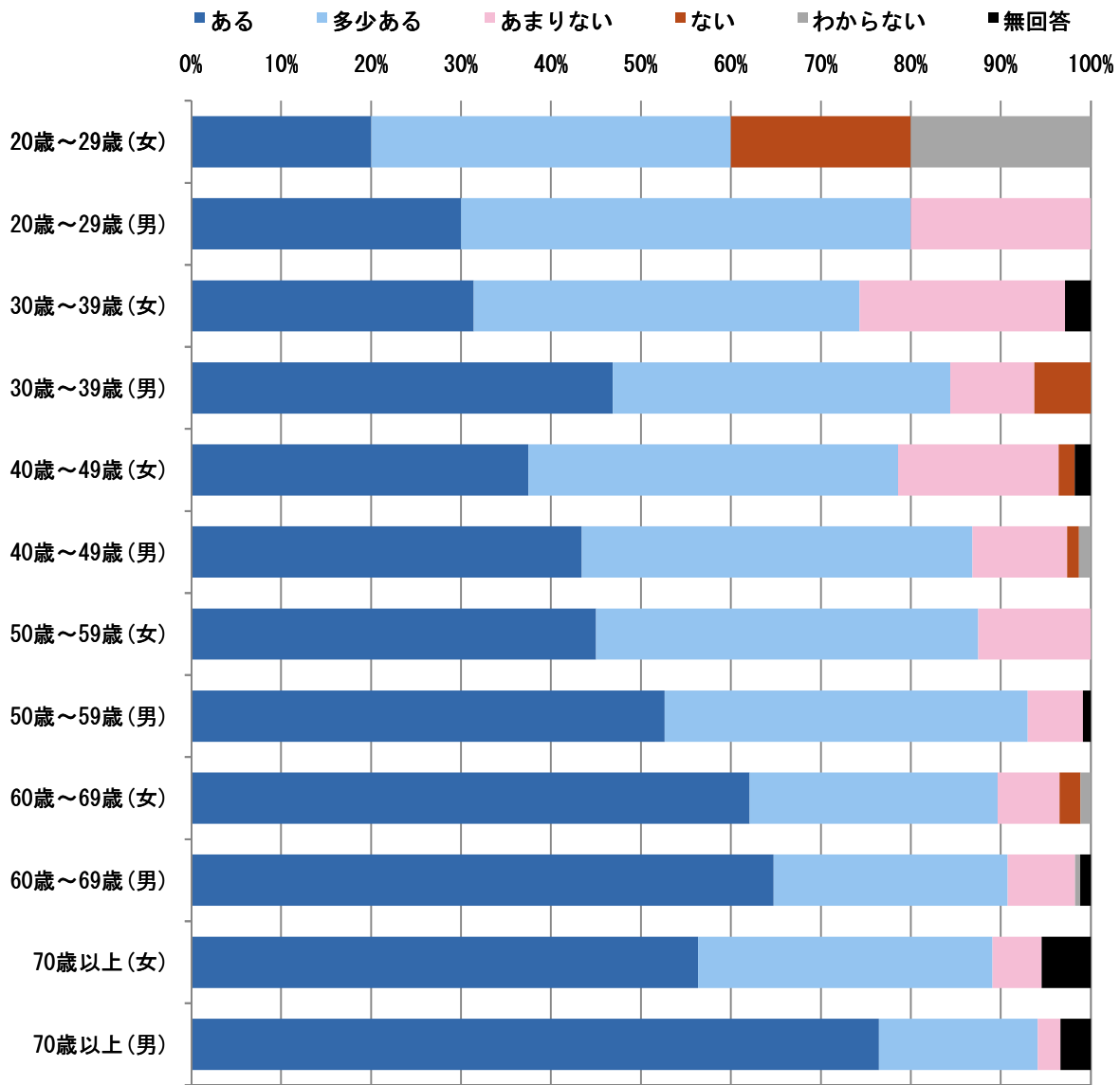
2 長野県の「山」に対する興味

全体 ○ 「興味がある」が過半数を占め、「多少ある」を加えると約9割



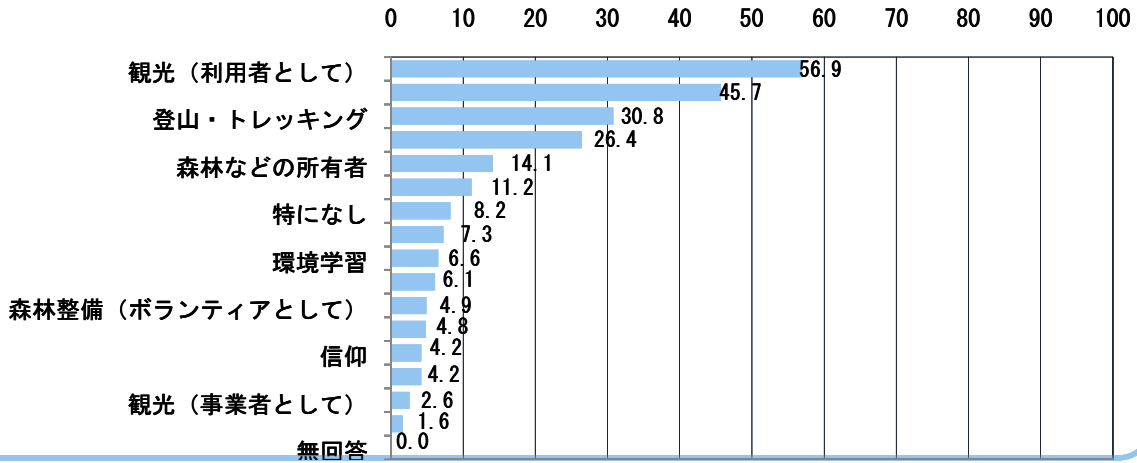
年齢
性別

○ 年齢階層毎の性別比較では、やや男性が興味が高い傾向
○ 20歳代女性の約4割は「興味がない」又は「わからない」

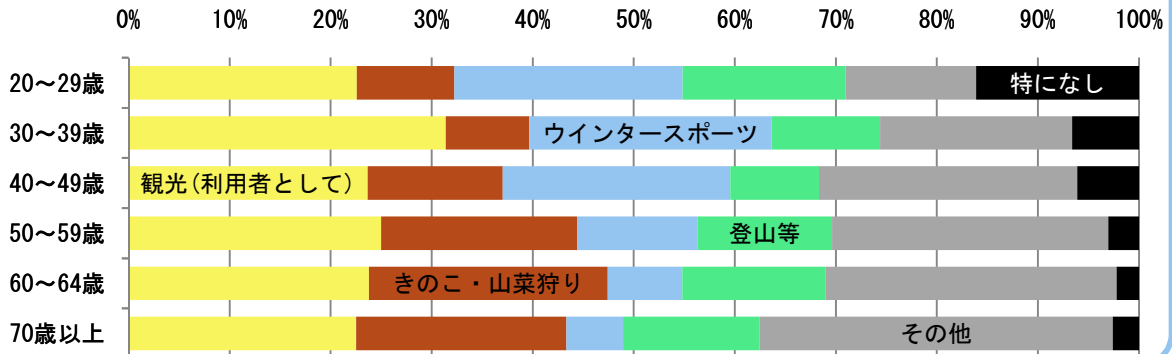


3 長野県の「山」との関わり

- 全体** ○ 「観光(利用者)」が56.9%、次いで「きのこ狩り等」、「登山等」、「ウインタースポーツ」、「森林所有者」
 ○ 総じて「山」と何らかの関わりがある傾向(特になし：8.2%)



- 年齢** ○ 「観光(利用者として)」の関わりが年齢階層を通じて共通
 ○ 「きのこ・山菜狩り」は年齢が高くなるにつれて増加、一方で「ウインタースポーツ」は減少
 ○ 年齢階層が高くなるにつれ、関わり方が多様化

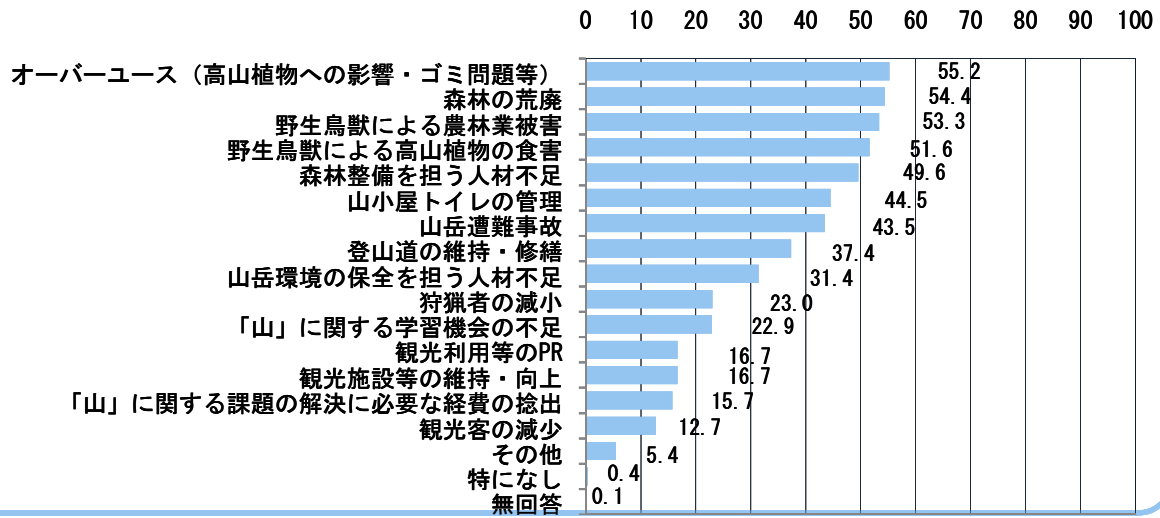


- 地域** ○ 「山岳環境保全活動」、「薪の調達」、「日常生活の場」、「信仰」、「環境学習」等の地域特性

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐久	観光(利用)	きのこ狩り等	ウインタースポーツ	登山等	森林所有者
上小	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	森林所有者
諏訪	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	山岳環境保全活動 森林整備ボランティア
上伊那	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	森林所有者	薪の調達
飯伊	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	森林所有者	日常生活の場
木曾	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	日常生活の場 信仰の場
松本	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	環境学習
大北	きのこ狩り等	日常生活の場	ウインタースポーツ	森林所有者	観光(利用)
長野	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	森林所有者
北信	観光(利用)	きのこ狩り等	ウインタースポーツ	森林所有者	登山等

4 長野県の「山」に関する課題

全体 ○ 「オーバーユース」、「森林荒廃」、「野生鳥獣による農
林業・高山植物への被害」等の多様な課題があると認識



年齢 ○ 若年層は「山岳遭難」や「オーバーユース」等の課題が大
きいと認識、年齢層が高くなるにつれ、「野生鳥獣被害」
や「森林の荒廃」等の課題が大きいと認識

地 域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代	山岳遭難事故	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	登山道維持・修繕	森林整備(人材不足) 山小屋トイレ管理
30歳代	オーバーユース	山岳遭難事故	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(高山植物)
40歳代	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	森林整備(人材不足)	山岳遭難事故
50歳代	森林の荒廃	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	野生鳥獣被害(高山植物)	森林整備(人材不足)
60歳代	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	森林整備(人材不足)
70歳以上	野生鳥獣被害(高山植物)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	森林整備(人材不足)

地域 ○ 全域で「オーバーユース」、「野生鳥獣被害」、「森林の
荒廃」といった課題はほぼ共通

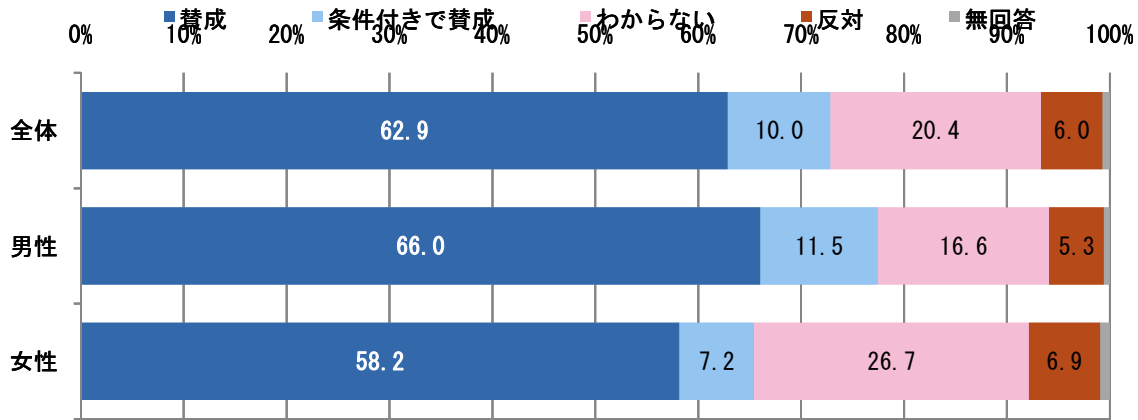
○ 「山小屋トイレの管理」も広域的に課題として認識

地 域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐 久	オーバーユース 野生鳥獣被害(高山植物) 野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	森林整備(人材不足)	山岳遭難事故	山小屋トイレ管理
上 小	森林の荒廃	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)
諏 訪	野生鳥獣被害(高山植物)	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	森林の荒廃	森林整備(人材不足)
上伊那	森林の荒廃	野生鳥獣被害(高山植物)	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)
飯 伊	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)	野生鳥獣被害(高山植物)	オーバーユース
木 曾	森林の荒廃	オーバーユース	山小屋トイレ管理	登山道の維持・修繕	学習機会不足
松 本	オーバーユース	山岳遭難事故	野生鳥獣被害(高山植物)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)
大 北	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	山小屋トイレ管理	森林の荒廃
長 野	森林整備(人材不足)	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	山小屋トイレ管理
北 信	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	山小屋トイレ管理	野生鳥獣被害(高山植物)

5 長野県の「山の日」(仮称)の制定

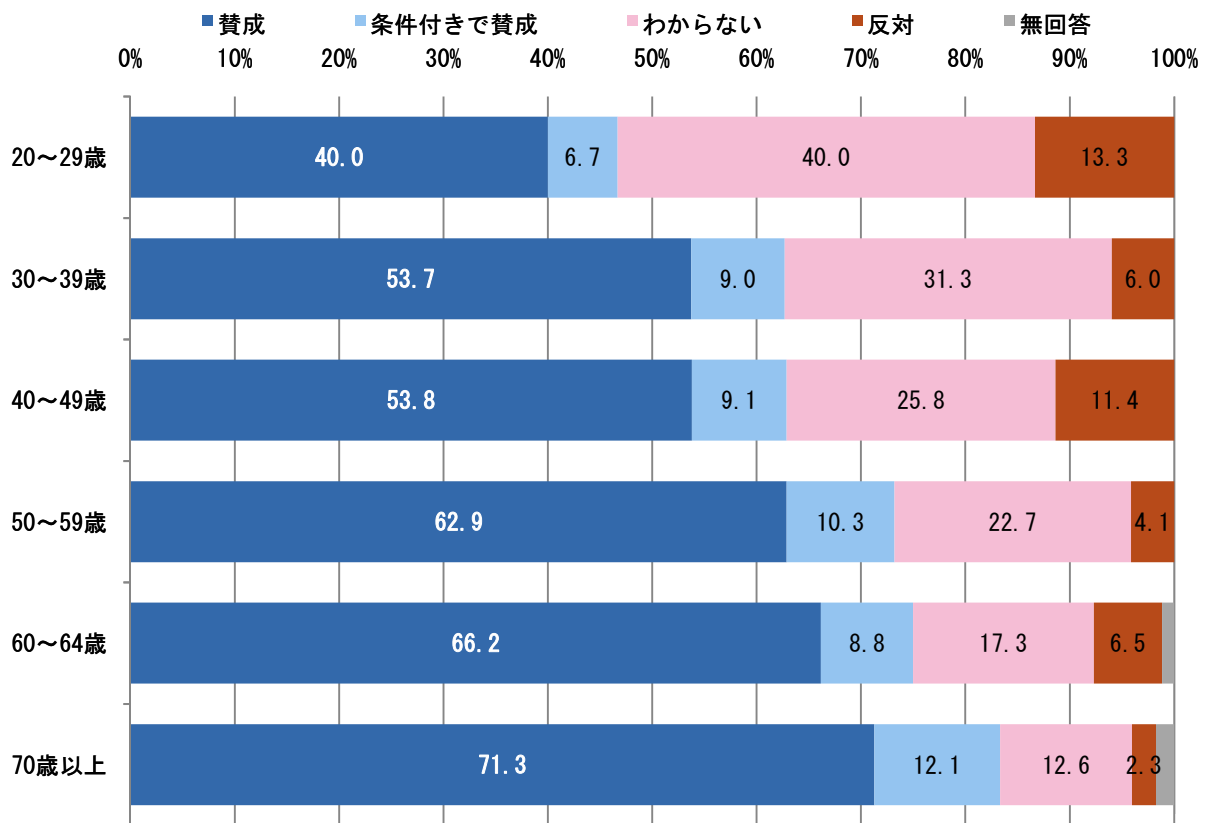
全体
性別

- 「賛成」(62.9%)と「条件付きで賛成」(10%)で約7割「条件」として「制定の目的の明確化」、「観光客誘致と山の保全を両立」等の意見
- 「わからない」という意見が全体の約2割を占め、女性の比率が高い傾向



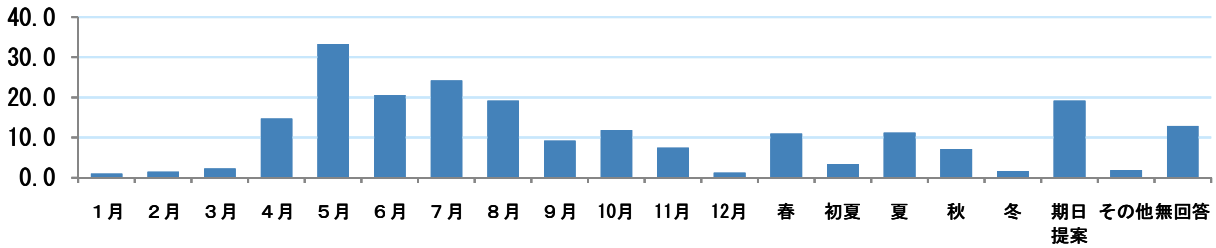
年齢

- 年齢層が高まるにつれ、「賛成」の意見が高くなる傾向
- 20歳代の40.0%が「わからない」と回答し、主な理由は「制定の理由がわからない」という意見
- 問2の「山に対する興味」と同様の傾向



6 長野県の「山の日」(仮称)の時期

全体 ○ 「5月」が33.2%で、次いで7月(24.2%)、6月(20.5%)、8月(19.1%)、4月(14.7%)と春から夏にかけて多い傾向

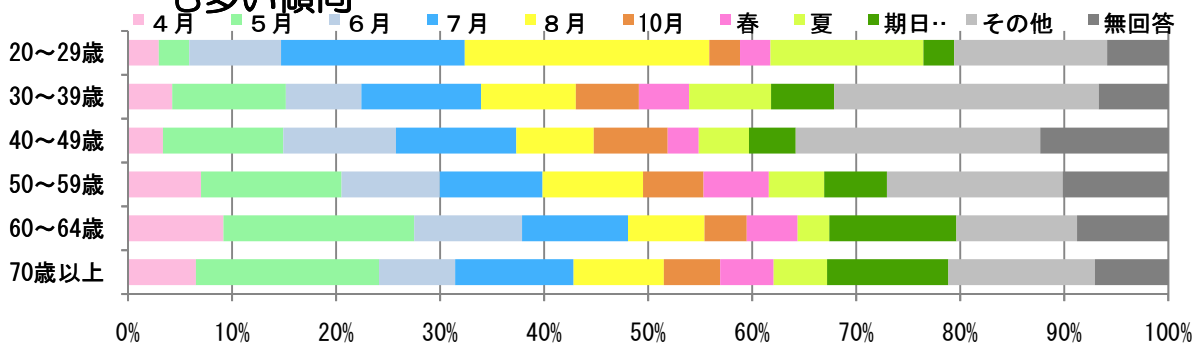


提案時期	件数	主な提案理由
4月	20	春の始まり、雪解け、ゴールデンウィーク前半の連休 等
5月	38	新緑、ゴールデンウィーク後半の連休、植樹活動、登山シーズン前の啓発 等
6月	20	山開き、深緑、祝日のない月、植樹活動 等
7月	30	山開き、夏山シーズン開始、晴天日の多い季節 等
8月	27	山岳観光シーズンの最盛期、夏休み、帰省、「八」の文字の形と山の形

期日 ○ 「新緑」、「芽吹き」、「山開き」、「夏休み」等を意識した期日を提案

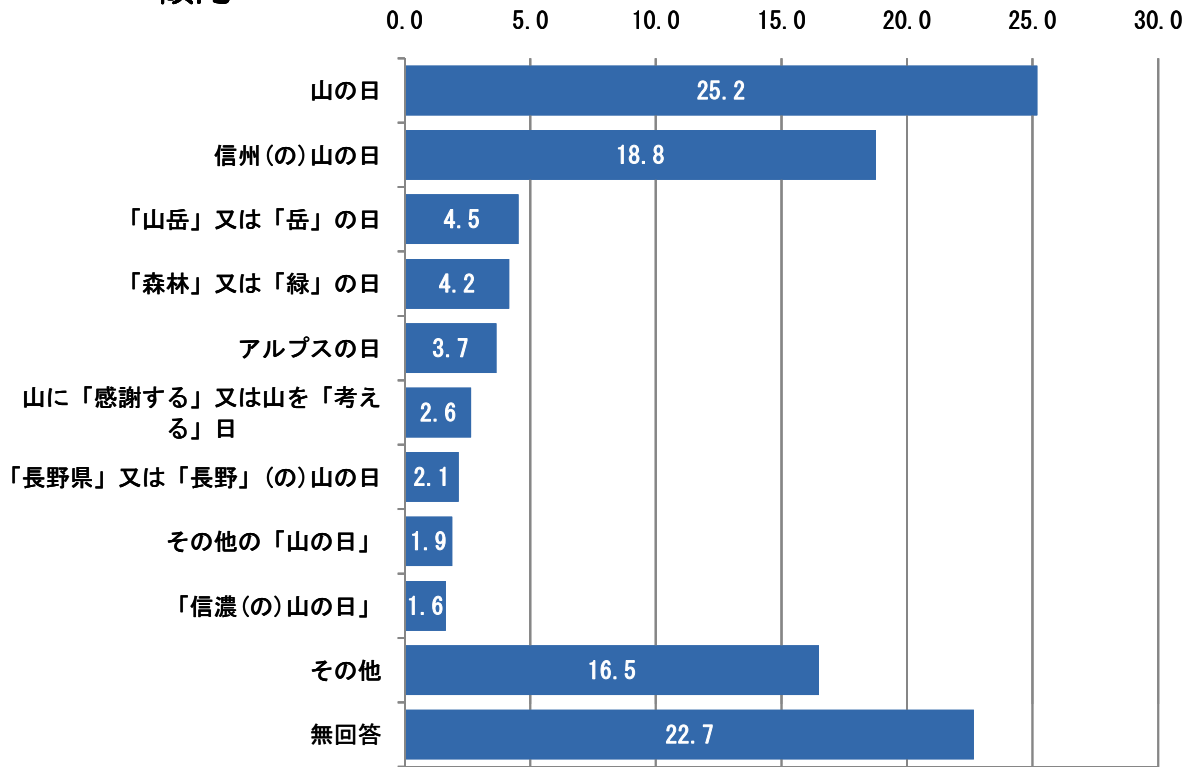
提案期日	件数	主な提案理由
7月1日	13	<ul style="list-style-type: none"> 多くの山開きが行われる日 夏山シーズンの始まり 1年の中心日(本県が日本のほぼ中央に位置し、山も中心的な象徴) 緑の生い茂る季節
6月1日	10	<ul style="list-style-type: none"> 緑の芽吹きの頃、新緑の美しい季節 植樹活動に最適 1年の真ん中の時期で野外活動が盛んになる頃
8月1日	9	<ul style="list-style-type: none"> 「八」の文字の形が山の形に似ていることから 夏休み期間中にあたり、行事等への入り込みに期待 松本深志高等学校落雷事故
5月10日	8	<ul style="list-style-type: none"> 若葉のきれいな季節 過ごしやすい気候
5月4日	7	・みどりの日と同趣旨
8月8日	7	・「八」の文字の形が山の形に似ていることから

年齢 ○ 20歳代は「7月」、「8月」、「夏」
○ 30、40、50歳代は多様な意見が多い傾向
○ 60歳代、70歳以上は「5月」が多く、具体的な「期日提案」も多い傾向

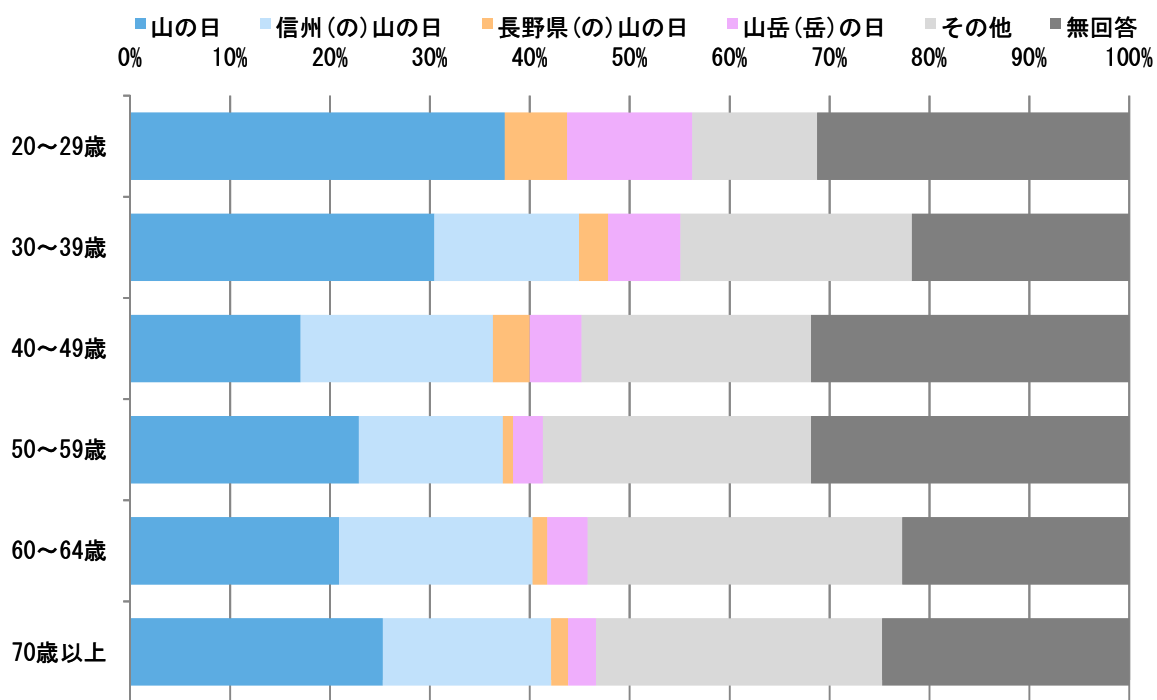


7 長野県の「山の日」(仮称)の名称

全体 ○ 「山の日」が25.2%で、次いで「信州(の)山の日」が多い傾向

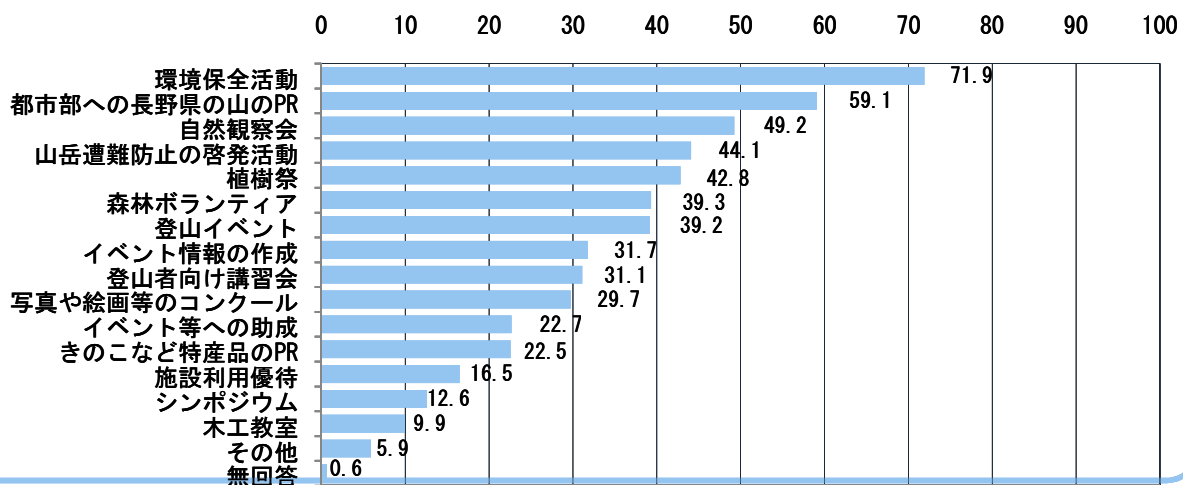


年齢 ○ 20歳代では「山の日」、「山岳(又は岳)の日」が多い傾向
○ 30歳代から70歳以上にかけて、「山の日」、「信州(の)山の日」が多い傾向

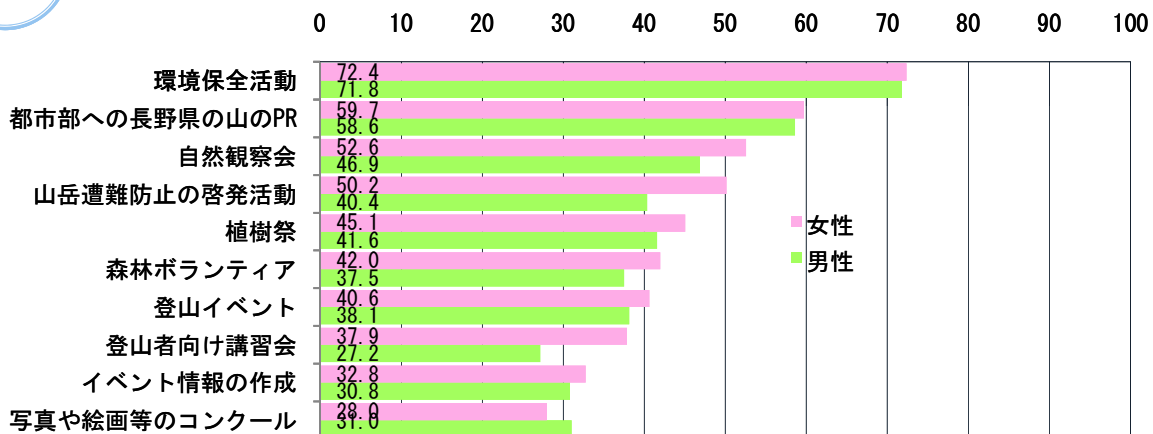


8 長野県の「山の日」(仮称)の取組

全体 ○ 「環境保全活動」が71.9%と高く、次いで「都市部への長野県の山のPR」(59.1%)、自然観察会(49.2%)



年齢 ○ ほとんどの項目で女性の数値が男性を上回る傾向



地域 ○ 「環境保全活動」と「都市部へのPR」は全ての地域で要望が大きい傾向

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐久	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	登山イベント
上小	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	登山イベント	山岳遭難防止啓発
諏訪	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	山岳遭難防止啓発 森林ボランティア
上伊那	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	山岳遭難防止啓発
飯伊	環境保全活動	都市部へのPR	植樹祭	森林ボランティア	山岳遭難防止啓発
木曾	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	登山者向け講習会	植樹祭 森林ボランティア きのこ等PR
松本	環境保全活動	都市部へのPR	山岳遭難防止啓発	自然観察会	登山イベント
大北	環境保全活動	都市部へのPR	植樹祭	山岳遭難防止啓発	自然観察会 森林ボランティア 登山イベント 写真等コンクール イベント等助成
長野	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	森林ボランティア	植樹祭
北信	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	山岳遭難防止啓発	森林ボランティア 写真等コンクール